

❖ 科目名 Course Title			
青少年文化論			
❖ 担当教員 Instructor			
池上 将永			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	1
❖ 履修可能人数 Capacity	(遠隔) 制限なし	❖ 単位数 Number of Credits	1
	(対面) 10名程度		
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ 授業の目的 Course Objectives

❖ 授業概要 Course Description

青年期は児童期と成人期の橋渡しの時期であり、今後の人生に向けての準備と猶予の期間とされている。また、青年期は自己の内面に意識が向かうとともに、しばしば心身の不安定を覚える時期でもある。青年期の心理について体系的な知識を得ることは、受講生自身の自己理解を深め、また青年期に特有の心理的な諸問題を考察する際に役立つと思われる。この講義では、青年心理学の知識を中心として、青年期の意義や青年期の行動・心理特性、青年を取り巻く社会環境等について学ぶ。また、青年期に生じやすい心身の不適応に関する基礎的な知識についても学ぶ。

❖ 到達目標 Course Goals

一般目標：  
 青年期の心理・行動特性に関する基本的な知識を身につけ、  
 青年期への理解を深める。  
 行動目標：  
 ・ 人生における青年期の位置づけや意義について説明できる。  
 ・ 青年期の心理と行動の特徴について説明できる。  
 ・ 青年期の不適応行動について心理学の視点から説明できる。

❖ 授業計画 Course Schedule

コマ数	履修主題	履修内容
1	はじめに	講義の概要と進め方、受講契約について説明する。
2	青年期とは (1)	人生における青年期の位置づけを、発達心理学における知見を中心に確認する。
3	青年期とは (2)	代表的な青年期観と青年期の課題について概観する。
4	青年期と自己意識 (1)	青年期における自己意識の発達について考える。
5	青年期と自己意識 (2)	青年期に見られる自意識過剰や対人不安的心性を、自己意識との関連から理解する。
6	青年期の不適応 (1)	現在、青年期の問題として注目されている「社会的ひきこもり」について、映像資料等も参考にしながら理解を深める。
7	青年期の不適応 (2)	青年期における身体の発達と、ボディ・イメージの形成に関連する諸問題について考える。
8	青年期の自己確立	自我同一性の形成は青年期における中心的課題のひとつである。自我同一性の概念について理解する。

9	青年期と友人関係	青年期における友人関係の意義について考える。
10	青年期と恋愛	青年期は恋愛を通じてより親密な対人関係の確立が試みられる段階である。青年期における恋愛の特質について考える。
11	青年期とキャリア発達	進路・職業選択に関わる知識や行動様式の発達（キャリア発達）について考える。
12	青年期と労働観	近年の社会・経済状況の変化は、青年の労働観にも変化をもたらしている。「ニート」問題を中心に、働くことの意義を考える。
13	青年期から成人期へ（1）	成人期への移行に必要な心理的成熟について考える。
14	青年期から成人期へ（2）	成人期への移行に必要な心理的成熟について考える。
15	まとめと期末試験	講義全体のまとめ、および理解度を確認するための記述式試験を行う。

#### ❖ 成績評価 Grading System

成績評価は、毎回の講義の後に配布されるリアクションペーパーの記述内容(60%)と期末試験(40%)の成績を合わせて総合的に行う。次のような場合は不可となる。1) 3回連続で欠席した場合；2) 通算で5回以上の欠席；3) 総合点が60点に満たないもの

#### ❖ 参考書 Reading List

エピソードでつかむ青年心理学（大野久・ミネルヴァ書房）2,808円

#### ❖ 準備学習 Homework

各回で配布されるプリントにもとづき、学習内容のまとめを行うこと。

#### ❖ 連絡先 (E-mail) E-mail

ikegamim※asahikawa-med.ac.jp（※を半角アットマークに変えて送ってください。）

#### ❖ 質問・相談への対応方法 Contact Information

授業に関する質問：質問等がある場合は、メールを送ってください。メールを送る際は、送信者の氏名と所属大学を忘れずに記入してください。

成績評価に関する質問：所属大学の担当係に問い合わせてください。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。